



〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
TEL 028-649-8649 FAX 028-649-5026 URL http://www.utsunomiya-u.ac.jp
E-mail plan@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp



豊かな発想を地域に、新たな知を世界へ

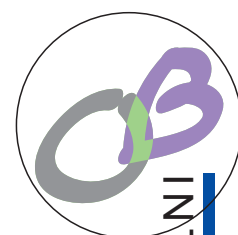
NOW

● vol.14

発行：宇都宮大学
編集：広報室

CONTENTS

- 1 チャレンジャー
- 2 特集・変わる峰キャンパス
- 4 地域貢献REPORT
- 5 SLOW FOOD
- 6 学生アンケート「宇大生は今!」
- 7 INFORMATION
- 8 研究 Keyword



INTERVIEW

チャレンジャー

人生に役に立ち学び

中国製冷凍餃子問題や食品偽装問題など、いま、食品の安全に対し厳しい目が向けられている。「分析試験を通じて『健康と安全』をサポートする」ことを使命とする食品分析センターの理事長として、こうした問題に最前線で向き合っている齋藤文一さん。宇都宮大学時代、先生と学生が「丸」となって実験研究に取り組んだ濃密な時間が、いまの仕事に就くきっかけとなった。仕事のこと、「酔っ払ってフランス式庭園の池で泳いだこともある」という学生時代の思い出、私たちが若者への想いを語っていただいた。

(取材／農学部4年 吉岡俊知 同・杉本和子)



財団法人 日本食品分析センター 理事長

齋藤 文一

Saito Bunichi

[さいとう・ぶんいち]1946年大分県大分市に生まれる。69年宇都宮大学農学部農芸化学科卒業。同年、財団法人日本食品油糧検査協会(同年7月財団法人日本食品分析センターと改称)入所。89年大阪支所長、96年多摩研究所長、03年理事長に就任。05年～08年日本食品微生物学会理事長就任。専門は食品微生物学。

「おまじこと」が原点

「私たちは依頼のあったサンプルを検査するだけではなく、検査結果を現場にフィードバックする努力をしている。結果が悪かったら何が原因かを依頼者と一緒に究明し、異常のあった部分を改善しなければならぬ。検査結果が活用されなくては意味がないのです。」

データの信頼性の確保が生命線である。分析機器の温度設定一つにしても細心の注意を払う。自動モニターだけに頼らず、人間の目で一日に何度も確認し設定に間違いがないことを証拠に残していく。停電などのトラブルで分析結果に異常をきたしても記録を残しておけば原因の確認作業ができる。

「正しい結果でなければ現場に

フィードバックしたときに不具合が出てしまう。正確性を確保するために、そこまでするのかと皆さんがびっくりするほどの対応をしています。学生のみならずも天秤やPHメーターなどの計量器をきちんと管理しないと正しいデータは得られない。私たちに言わせれば、学生の分析は正確、信頼性という点では「おまじこと」と手厳しい。

だが、その「おまじこと」がシビアな現場と向き合う齋藤さんの原点でもある。

先生・先輩との濃密な時間

乳酸菌を使って酵母エキスに含まれる糖の発酵をインデューズ(誘導)する物質は何か、先

生、学生が一丸となって追いか

けた。当時は、いまのように設備が整いオートメーション化された時代ではない。微生物の培養に使う培地など実験資材も手作り。何から何まで自分たちでやらなければならぬ。先生も大学院の先輩たちも、その大変さを知っているから、みんなが協力し合い一緒に作業をする。気分転換の酒飲みもキノコ採りも一緒だった。ともに学び遊んだ先輩たちとの付き合いは、いまも続く。

「いまの学生はどうなのかな。共同作業のようなものも少なくなつて、先生と学生、学生同士の間が薄くなつてきているんじゃないかという心配がある。」

コミュニケーションが薄れて

いる時代だからこそ、「人と人との関係を大切に」との想いが強い。「政治のこと、社会のこと、世界のことも、喧々諤々大いに語り合つてほしい。こじんまりとした学生はいい。個性を磨くことです。いまの学生はみんな金太郎飴。能力も、思考方法もほとんど同じ、それではおもしろくない。そうならないために、学業だけではなく人生に役に立つようなことを学んでほしい。勉強以外に強みを持った人間は、社会に出たとき、いつか必ず光ります。」

タバコのように食らいつく

宇大の先輩に「研究ができるから」との誘いを受け嬉々として入社した職場は、「地下の一室を改装した実験室で、設備も充分ではない。仕事も少ない。これでよく給料がもらえる」と心配になった」という。

半年後、環境は激変する。人

工甘味料「チクロ」に発がん性があることが分かり、日本中が大騒ぎとなった。「チクロが含まれていない」という証明を得るため分析依頼が殺到した。その後PCR、農薬、水銀などの公害問題が次々と明るみになった。分析センターはそういう問題に積極的に取り組んだ。齋藤さん自身は大学時代の研究テーマだった微生物の分析を担う。「タバコのように何にでも食らいついて一生懸命勉強し

た」という。時代の要請だったのだらう。入社当時40人だった職員が、現在1300人までに成長。そのトップに立つ齋藤さん。「私は職員とその家族の生活を守る責任がある。だから必死です。」

「確かに若い人は、大きな会社に憧れるところがあるかもしれない。でも小さな会社には成長していく様子を体感できる充実感がある。取ってチャレンジャーになって、小さくても成長が期待できる会社に進むことも一つの選択だと思う。ただ言えることは、会社の大小にかかわらず、何事にも自分から飛び込んでいく気持ちがあれば、自らの成長はない。」

(文・ヒオス編集部/撮影・木原悠策)

宇都宮大学に関する情報は

宇都宮大学

Home Page Address

- 宇都宮大学 <http://www.utsunomiya-u.ac.jp/>
- 国際学部 <http://www.fis.utsunomiya-u.ac.jp/fis/indexj.html>
- 教育学部 <http://ks001.kj.utsunomiya-u.ac.jp/>
- 工学部 <http://www.eng.utsunomiya-u.ac.jp/>
- 農学部 <http://www.agri.mine.utsunomiya-u.ac.jp/>

TOPIC 2

フランス式庭園の散策はいかが。

宇都宮大学の峰キャンパス内にあるフランス式庭園は、うつのみや百景にも選ばれた美しい庭園です。この庭園は、大正12年に宇都宮高等農林学校（現農学部）設置当時から教員たちによって造庭設計が行われ、その後学生や地域の青年団の方々の労力奉仕をいただき、大正15年の秋にほぼ完成した歴史のある庭園です。

今年初めての試みとして、フランス式庭園のつつじが満開になる5月の連休に、日頃、立入禁止としている芝生の一部を開放し、同時に、『学内樹木マップ』を用意し、構内を自由に散策しながら樹木を見てまわられるようにしたところ、約750名の方が大学を訪れました。

フランス式庭園の芝生内は立入禁止ですが、石畳の歩道部分はいつでも訪れて散策することは可能です。ぜひ、新緑の庭園、雪の庭園……と季節ごとに美しさを変える庭園をお楽しみください。

また、『学内樹木マップ』も正門案内所でいつでも配付しています。マップ片手にウォーキングはいかがでしょう。



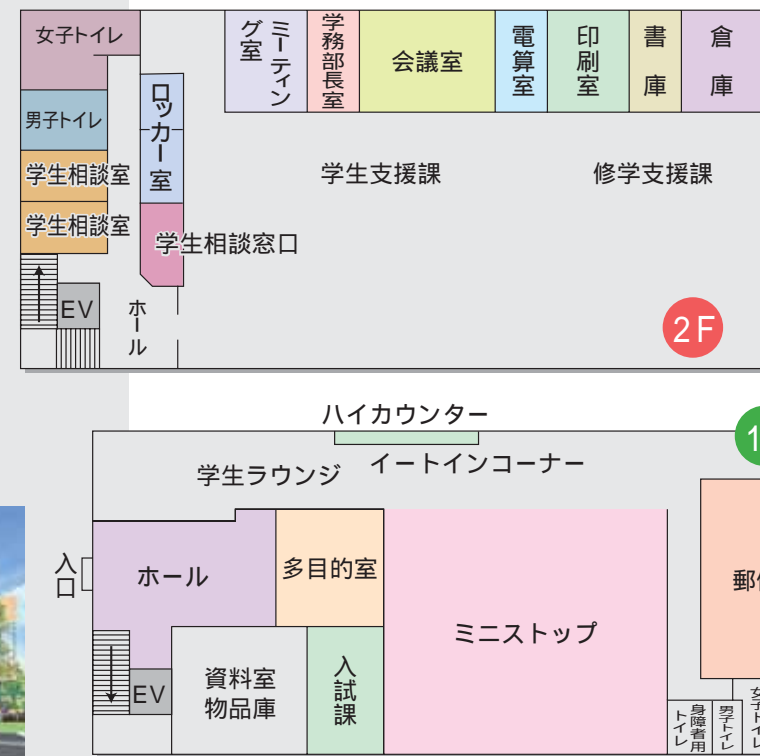
TOPIC 3

旧サークル跡地に複合施設が誕生します。

本学では、学生・教職員に対する福利厚生施設の充実及び地域住民等に対する利便性の向上等の観点から峰地区構内・教育学部理科棟北側（旧サークル棟跡地）に複合施設を整備します。

1階には「入試課事務室」、「コンビニ（ミニストップ）」、「峰郵便局」が入居するほか、多目的室やホール、学生ラウンジなどが設けられます。

また、2階には「学生センター事務室（修学支援課、学生支援課）」が入居し、学生相談窓口や学生相談室（2室）の他に会議室等が設けられるなど、利便性の高い施設になりそうです。オープンは来年2月の予定。施設が充実しますますます楽しく便利になる宇都宮大学にご期待ください。



TOPIC 1

旧講堂が内も外も補修されます。

宇都宮大学正門から入って右に曲がるとフランス式庭園、その奥に木造の旧講堂があります。大きな切妻屋根のうえには、しゃれた換気塔。横には大谷石で造られた書庫2棟を従えています。ビルの谷間に残る札幌の時計台（旧札幌農学校の講堂）よりずっと風情がある……そんな声に頷きたくなる建物です。



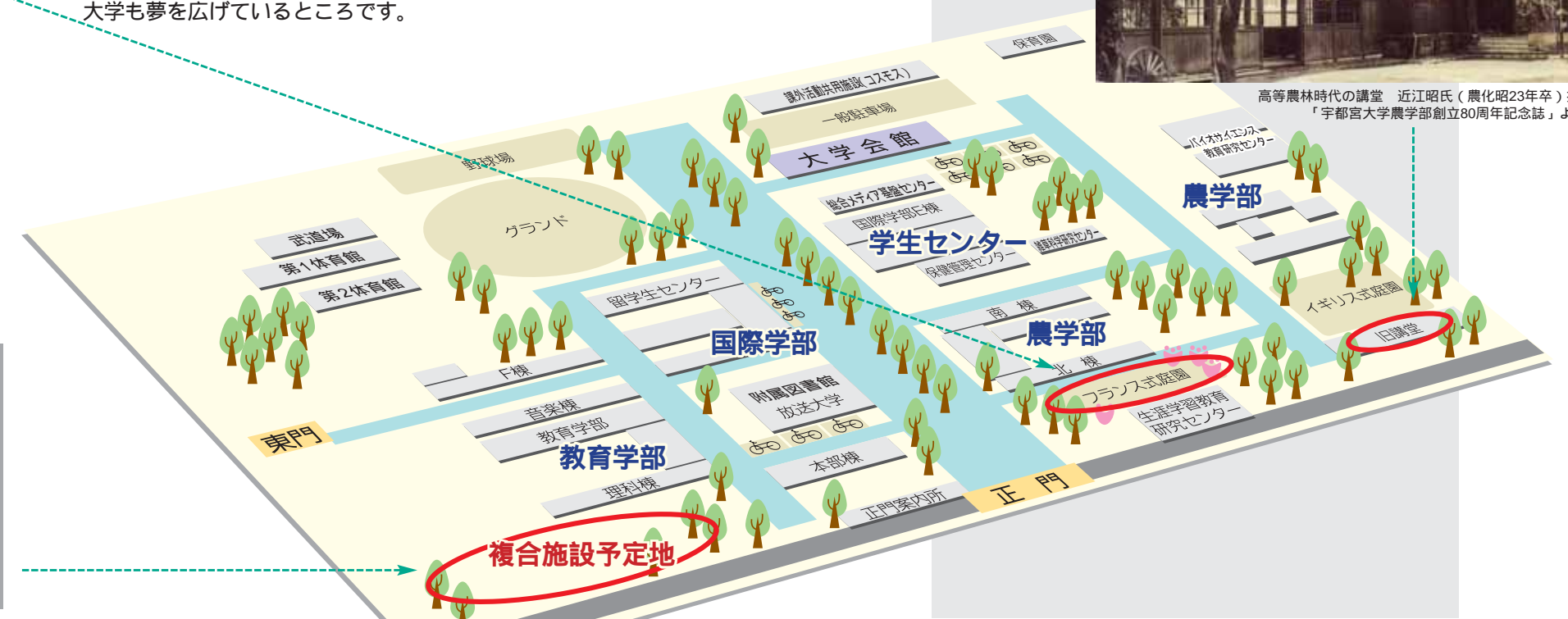
講堂での鈴木梅太郎博士の特別講義（昭和17年頃）
田淵好久氏（農昭18年卒）提供
「宇都宮大学農学部創立80周年記念誌」より

この旧講堂は、大正13年に宇都宮高等農林学校の講堂として造られました。関東大震災・戦災を免れ、風雨に耐え、さまざまな集会に使われてきました。戦後の一時期にはサークルの部室として使われたりもしましたが、平成17年に教職員・同窓会等の寄附をいただき課外活動共用施設が竣工されてサークル部室が移転したことにともなって、現在は使用されていません。

多くのガラスが割れ、外壁はとところどころ板が剥がれ落ち、おまけに落書きまで残っているという現在のさびしい状況が、いよいよ今年、改善されます。6月から改修の手が入られ、空調も整備され11月末には補修完成の予定。その後、別棟でトイレも造られる予定です。整備された後は、一般公開も考えの中に入れながら、展示会、イベント、ギャラリー、コンサート、セミナー等……、その使い方について、大学も夢を広げているところです。



高等農林時代の講堂 近江昭氏（農昭23年卒）提供
「宇都宮大学農学部創立80周年記念誌」より



ウダイを足て検索する日
オープンキャンパス
2008年8月3日(日)
9:00 Open
キョウ・ウダイ・イク
宇都宮大学
お問い合わせ
宇都宮大学企画広報室 Tel.028-649-8649
峰キャンパス:〒321-8505 宇都宮市峰町350
陽東キャンパス:〒321-8585 宇都宮市陽東7-1-2

ウダイの手伝いを感じよう日
栃木県南進学説明会
会場:足利市生涯学習センター
2008年8月8日(金) 12:30 Open
ウダイ・イマ・マナボ
宇都宮大学
お問い合わせ
宇都宮大学企画広報室 Tel.028-649-8649
峰キャンパス:〒321-8505 宇都宮市峰町350
陽東キャンパス:〒321-8585 宇都宮市陽東7-1-2

ウダイの手伝いを感じよう日
栃木県北進学説明会
会場:矢板イースタンホテル
2008年8月11日(月) 12:30 Open
ウダイ・イマ・マナボ
宇都宮大学
お問い合わせ
宇都宮大学企画広報室 Tel.028-649-8649
峰キャンパス:〒321-8505 宇都宮市峰町350
陽東キャンパス:〒321-8585 宇都宮市陽東7-1-2

オープンキャンパス
9/10(水)
10:00~12:00
附属特別支援学校
場所:宇都宮大学教育学部
附属特別支援学校
(宇都宮市宝木町1-2592)
内容:小学部、中学部、高等部の自由参観
・入学相談(個別)
・校舎内外施設設備の見学
日程:受付 9:40~
日程説明:10:00~
自由参観・入学相談 10:15~
お問い合わせ
附属特別支援学校 Tel.028-621-3871
<http://ks001.kj.utsunomiya-u.ac.jp/> yougo

オープンキャンパス
10/28(火)
峰キャンパス 8:50~
教育学部
教育学部の専門科目の授業を自由に見学することができます。主に高校生向けの進学や大学生生活などについて学生と教員が質問に答える部屋、高校の先生方と教員が懇談する部屋も用意されます。
日時 10月28日(火) 8:50~17:40
場所 峰キャンパス・教育学部
お申し込み:学校名・学年・氏名を書いて、メールまたはFAXでお申し込みください。
E-mail kyisomu@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp
Fax.028-649-5244(下記あて)
お問い合わせ
教育学部総務係 Tel.028-649-5242
<http://ks001.kj.utsunomiya-u.ac.jp>

オープンキャンパス
11/8(土)
工学部 陽東キャンパス
お問い合わせ
工学部総務係 Tel.028-689-6004
<http://www.eng.utsunomiya-u.ac.jp>

オープンキャンパス
11/9(日)
国際学部 峰キャンパス
お問い合わせ
国際学部総務係 Tel.028-649-5164
<http://www.fis.utsunomiya-u.ac.jp/fis/indexj.html>

オープンキャンパス
12月
農学部 峰キャンパス
お問い合わせ
農学部総務係 Tel.028-649-5398
<http://agri.mine.utsunomiya-u.ac.jp>
詳細は次号(11月20号)

生涯学習教育研究センター

社会人の「学び直し」の支援(その2)

～「環境報告書」作成を通じた、ビジネス基礎能力の練成プログラム～

宇都宮大学では地域貢献事業に取り組んでいます。その取組の一つ、「専門知識を学び直して、その成果を社会で生かしていきたい！」と願う社会人を応援するシステムの開発について、前号に引き続き紹介いたします。



写真はいずれも2008年6月11日

指導・助言を行う安場博講師

地域環境モテレーターの養成

21世紀は、モノの時代から知識基盤型社会へと移行してきます。知識基盤型社会は、新しい知識や情報・技術が、政治、経済、生産、文化などあらゆる領域で諸活動の基盤となる社会です。変化の激しい現代社会において、未知の課題に取り組みそれを解決していくために、一人一人が思考力や判断力、表現力を高めていくことが求められています。

特に地球規模での環境問題や資源・エネルギー問題を考えるとき、日本が世界の各国と共生しつつ発展していくためには、社会を構成する各セクターが社会的責任を果たしていくことが強く求められるのです。

こうした社会的背景から、生涯学習教育研究センターでは、特に企業が発行する「環境報告書」に注目しました。「環境報告書」とは、企業が環境保全に関する方針・目標・計画、環境マネジメントに関する状況、環境負荷の低減に向けた取組みの状況(〇〇排出量の削減、廃棄物の排出抑制等)等、環境情報を総合的に取りまとめ、地域住民、消費者、金融機関などのステークホルダー(利害関係者)に公表する年次報告書のことです。

「環境報告書」の作成は、〇〇(企業の社会的責任)活動の一つとして位置づけられ、環境に配慮した事業活動を行うという社会に向けた「誓約書」としての機能をもちます。同時に「環境報告書」を作成し公表する行為は、自社の企業活動のあり方をふりかえる機会ともなり、効率的な経営(「ムリ・ムダ・ムラ」の排除)のためのツールとしても生かしていくことができます。

しかし、こうした「環境報告書」は、企業にだけに求められないでしょうか。生涯学習教育研究センターでは、公開講座で多くの「まちづくり」や「地域社会の活性化」に関するプログラムを提供してきました。こうした蓄積の中から、企業が環境報告書を作成するだけでなく、それらを地域社会との関係の中で活用し、企業を含む地域全体が環境報告書を作成するような取組みが必要になると考えました。そして、そこから環境に配慮できる社会人基礎能力を育成し、環境報告書の理念を拡張させていくことが必要だと考えました。

クホルダー(利害関係者)に公表する年次報告書のことです。

そこで、企業の環境報告書を作成し、地域全体で環境問題に取り組むことができる人材を「地域環境モテレーター」と名付けて養成し、同時にその社会的通用性を高めていく調査研究を「企業の環境取組み診断を通じたプロジェクトマネジメントの能力練成プログラム」として2007年度に文科省に申請し、「社会人学び直しニーズ対応教育プログラム」として採択されました。この年、315件の応募があり、採択された126件のうちの2件を生涯学習教育研究センターが昨年度から推進しています。具体的には、「企業の環境に関するコンサルテーション能力」「環境報告書の作成能力」「ビジネスにおけるマネジメント能力」を錬成することをねらいとしています。

環境報告書

ISO14001や環境省のエコアクション21等、企業の環境に対する取組みが進展してきました。環境報告書はこうした企業の環境配慮の取組みを地域の人々等のステークホルダーにわかりやすく説明し、信頼を得るために作成されるものです。

地域環境モテレーター

企業の視察や聴取り調査によって、環境報告書を作成し、企業の信頼を創造する人材。特に地域社会に存在する企業の企業市民としての社会的責任を明確にし、的確な報告書の作成能力と社会人としての基礎的能力を持つ人々を育成し、宇都宮大学として

履修証明を発行します。

学習プログラムの特徴

- ～エコロジカルポイント4～
- * 四層構造のプログラム

地域環境と環境報告書に関する基礎的知識の定着

講義を聴くだけでなく、それらをふりかえる時間を確保して学習内容の定着を図る

パートナ企業における現場・現実・現状の学習

企業とのコミュニケーションを通じて社会人基礎能力を育成する

基礎的知識と企業での学習を総合的に情報整理し、編集する力を育む

情報を選択し、再構成し、編集できる力量を形成する

* 成人教育の視点に基づき、学びやすく定着する学習方法

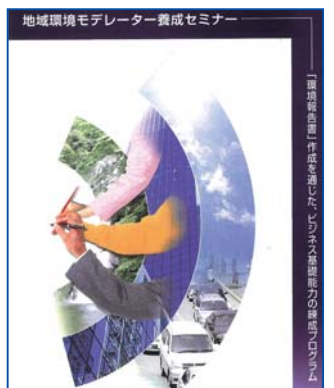
一方的に聴くだけの学びではなく、ふりかえり、意見交換する学習

学習成果を目に見える形で表現することによって目標を明確化する学習

短期間で集中的に学習することによって、効率的に知識と技術を身につける

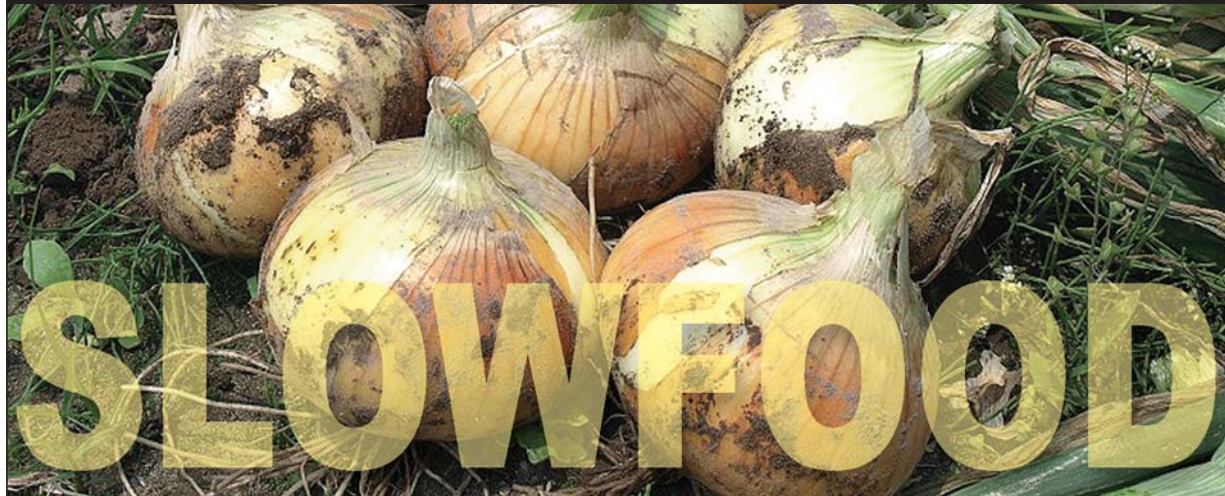
小集団(5人グループ)における相互学習による学習継続意欲の喚起

(生涯学習教育研究センター 廣瀬隆人)



問い合わせ先
宇都宮大学
生涯学習教育研究センター

〒321-8505
栃木県宇都宮市峰町350
TEL 028-649-5144
FAX 028-649-5145
E-mail : le-model@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp



鬼怒川のタマネギ 鬼怒川西部の沖積土が育む野菜

栃木県を流れる鬼怒川の河川敷では、宇都宮、上三川、南河内の範囲にわたって、昔から、タマネギの栽培が行われています。鬼怒川の河川敷に広がる肥沃な沖積土(土砂などが流水に運ばれて川岸に堆積した土)が、タマネギの栽培に適しているだけでなく、そこで作られるタマネギは、タマネギ特有の病気にかかりにくく、収穫時期のタマネギの表皮が綺麗な黄金色となるからです。



二つの種類のタマネギが植えられた宇都宮市上籬谷の畑。左半分が早生種の「ソニック」、右半分は晩生種の「甘70」という品種のタマネギ。ソニックは早生種のため成熟が早いので、写真では、ソニックの地上部の葉の部分が、甘70より先に倒れている。葉の部分が倒れる時が、タマネギの収穫時期の目安となっている

鬼怒川西部の河川敷では、1960年代から、水田の裏作の重点品目として、タマネギが導入されはじめました。はじめに導入されたタマネギは、全国的にも有名な「泉州黄(せんしゅうき)」という品種のタマネギでした。泉州黄は在来種(固定種)であったため、当時は、日光の戦場ヶ原で、県内で使用される泉州黄の種(タネ)が採取されていました。

1975年頃からは、泉州黄に代わって、味や形状など、色々な面で品種改良が行われたF1種(一代交配種)が、栽培の中心となりました。泉州黄のような種を自家採取できるものではなく、種が取れても次の世代は育たないF1種(一代交配種)への移行です。

はじめのF1種として、食味が良く収量が多く作りやすい「アポロ」という品種が導入されました。しかし、アポロは形状が扁平なため、市場では低い評価となりました。つまり、タマネギを食材として加工するときには、頭の部分をカットします。タマネギが扁平な形状だと、どうしても多くの実の部分をカットすることとなり、タマネギの食べられる部分の大きな損失(ロス)が生じてしまうというのがその理由でした。また、アポロは長期保存が難しいという貯蔵性の悪さも、評価を低くする要因となりました。

その後さらに改良が行われ、扁平さが解消された背の高い、いわゆる甲高なタマネギとして、「甘70」という品種が、作付けの中心となりました。また、成熟や収穫時期が早い「ソニック」といった早生種(わせしゅ)が、生食用として栽培されるようになりました。さらに現在では、収穫時期が甘70よりも遅く、

また貯蔵性に優れている「もみじ3号」という晩成種(ばんせいしゅ)の作付けが増えてきています。



隙間なくびっしりと植えられ、収穫を待つタマネギ。収穫量はおおよそ10アールあたり6トンにもなる。掘り起こされたタマネギの収穫作業のつらさが、高齢な栽培者の大きな負担となっている



掘り起こされ、地上部をカットした鬼怒川のタマネギ。表皮の皮が、黄金色で綺麗で鮮やか。包丁を入れると、中はみずみずしく、生食に向いていることが良く分かる

今回取材させていただいた、鬼怒川西部の河川敷の清原地区は、昔から河川敷でのタマネギ栽培が盛んに行われてきた場所のひとつです。清原地区で昔からタマネギを作り続けている鈴木俊一さんは、機械植えの甘70を50アール、ソニックを22アール栽培されている、タマネギの専業農家のお一人です。鈴木さんによると、1965年頃は、清原地区で、約120名のタマネギを栽培する組合員がいました。しかし、今では高齢化が進み、わずか20名ほどになってしまいました。特に、20代から30代の若い栽培者が一人もいなくなってしまい、全体的に高齢化が進んでいます。

このように、鬼怒川沿いを中心として栃木県産のタマネギの栽培者が減ってきたのは、県外でのタマネギの生産量の増加、中国産による安価なタマネギの輸入によるタマネギ農家の収入の減少が挙げられます。また、収穫時にタマネギを掘り起こす作業の機械化は進んでいますが、最終的にタマネギを拾い上げる重労働が残されています。収穫作業にともなう土の埃も、作業を大変にさせています。鈴木さんによると、同じ清原地区では、トマト、イチゴ、ランなどのハウス栽培によって、大きく売り上げを伸ばしている農家もあります。しかし、タマネギ作りだけにこだわって、作り続けていくのは、なかなか難しいとのことでした。

タマネギは、カレーや炒めものなど、我々が普段好んで食べる多くの料理に使われていますが、なかなか主役にはなれない野菜です。またタマネギは、火を通して調理されることが多いため、品種による味の違いが分かりにくく、品種名で販売されることがほとんどありません。タマネギは、品質の良さ、地域の特徴が分かりにくい食材と位置づけられています。

そこで、鬼怒川の沿岸を中心として栽培されているタマネギの生産を守るために、JAうつのみや玉葱専門部では、シェフの協力を得て、タマネギタルトやタマネギのホイル焼きといった料理法を提案するなかで、食材としてのタマネギの産地へと脱皮することを目指しています。また、タマネギの新しい食べ方の提案を通じて、地元のタマネギを知ってもらい、消費量の拡大、地産地消を進めようとしています。

タマネギ生産地のライバルは、南から、九州各県、淡路島、兵庫県、静岡県、そして北海道です。特に北海道産のタマネギが夏場に市場へ流れてくると、急激にタマネギの価格が下がります。そこで鬼怒川のタマネギは、北海道産のタマネギとの競争を避けるために、夏場前の6月～7月にかけて、栃木県近郊の東京や仙台に出荷されています。

タマネギの早生種は、水分が多く、辛味が少なく、生で食べる生食に適しています。一方で、中・晩成種は水分が少なめで日持ちはしますが、水分が少なくなる分、辛味が強いとされています。しかし、鬼怒川の沖積土は砂質土壌でもあり、これらの土で育てられたタマネギは、晩成種でも辛味が少なくなるのが特徴だそうです。この点が、黒ボク土壌で育てられた北海道のタマネギとの大きな違いであるということでした。



タマネギ畑を良く見ると、抽台(ちゅうだい:タマネギの花が伸びだすこと)が観察される



抽台が発生すると、写真のように茎がタマネギまで伸びることになり、その結果としてタマネギの頭の部分が固くなり、商品として出荷できなくなる。施肥量が少ないとタマネギの肥大(ふとって、大きくなること)が悪くなったり、抽台が発生したりする。逆に施肥量が増えると病害の発生が多くなる。タマネギを栽培している農家は、毎年土壌分析を行い、細心の注意を払い、適切な施肥を行っている

生産者の鈴木さんや、清原地区のタマネギを取り扱っているJAうつのみやの職員の方に、タマネギの美味しい食べ方をお尋ねしたところ、薄くスライスしたタマネギを、シソ味ドレッシングをかけて食べるのがお勧めだそうです。早速取材で分けて頂いたタマネギを、家の台所で切ってみると、頭頂部まで均一で、綺麗でみずみずしいタマネギの断面に、目を奪われました。オニオンスライスにして食べながら、このように水分が多く、辛味がないタマネギは、生で食べるのが一番だということを実感しました。

(農学部 野口良造)



今回は、1年生に聞く「これからしたい10のこと」、4年生に聞く「在学中にやって良かった10のこと」を各学部ごとに聞いてみました。受験生や在学生の皆さんに、大学ではどんなことができるのか、の参考になれば幸いです。

学生アンケート

宇大生は 今!

4年生 在学中にやって良かった10のこと

—教育学部—

- 一人暮らし・バイト・教育実習・飲み会・旅行・朝までオール
- サークル・ボランティア・恋♥車の免許を取った
- サークルに入った・実習(特に施設実習と教育実習)
- 接客系のバイト・自分で海まで車を運転して朝日を見た
- 就職活動(自己分析できたいしたから)・二日酔い、親や友達と大げんか・色々なボランティア活動に積極的に参加したこと
- 社会人がたくさんいる中での飲み会(バイト先など)
- 飲み会で大学教授の個人的な考えとか過去の話を聞いたこと
- 恋♥旅行・勉強・実習・車の免許・飲み会・朝帰り・一人暮らし
- 岩盤浴・就職活動
- 海外旅行・色々な職種のアルバイト・ボランティア
- 自分の興味のあることとこころを勉強する
- 友達とまたは世代の異なる人とじっくり話あ(将来のこと、自分の価値観、社会の価値観、恋愛、結婚とかについて)・結婚式に出席する
- 自分の弱いところを理解してそれを受け入れる・サークル
- たくさん遊ぶ・徹夜
- サークルの活動—ネイチャーフレンド(子ども達を対象に自然体験活動を行うサークル)
- サタデースクール—実際に教壇に立って授業もあるという貴重な経験となった・学童保育でのアルバイト
- スピーチの練習をした授業—自分の苦手なこと(話あこと)を少しでも直していきたいと思った

—工学部—

- 大学祭・サークル・勉強・資格の取得・外国人の友達が出来た
- バイト・大学祭・飲み会・製図の授業・実験
- サークル・バイト・ドライブ・飲み会・就活の企業研究
- 大学祭・一人暮らし
- サークル・バイト・ギター・飲み会
- 大学祭・旅行・バイト・飲み会・サークル・一人暮らし



—農学部—

- ボートとある・一般企業でのアルバイト(実際の会社の雰囲気があった)
- 順調に単位を取る・カラオケで歌い続ける・お酒に慣れる・先生と仲良くして、よく話あ・一人旅・二人旅・卒論に一生懸命取り組む・社会の流れに興味を持つ
- バイト・読書・一人暮らし・その場の勢いで遊ぶ・海外旅行・貯金・一人旅
- 自分磨き・専門以外の勉強・学外にも友達を作った
- スーパーでのバイト・読書(今後も継続)・一人暮らし・実家に頻りに帰った(親のありがたみがわかった)・恋人と一緒に居れた・学校の実習に行った・免許を取った
- つづもりを飼った・節約・節電・自動車とぶつかった(安全確認の向上などその後に役立った)
- バイト・サークル・一人暮らし・失恋・新しい恋♥・友達をたくさんつくった
- 方言を書いた・昼ドラを見た・遊んだ・先輩の調査を手伝った
- サークル・飲食店バイト・サイクリング(いろは坂越え)・散歩・飲酒・植物観察・貯金
- 節約生活・体カトレーニング・友達をたくさんつくった

—国際学部—

- 友達と生協にたまる・実習・旅行・スポーツ大会の参加・学部飲み会・一人暮らし
- アルバイト・ホームステイ・趣味追求・就職活動で自己発見
- サークル・バイト(いろいろな種類の)・違う学部の授業をとる
- 国内外の旅行・留学生との交流・お酒を知る・自由な時間の使い方を学ぶ
- 友達をつくる・資格をとる・イベントの企画、運営、参加もある
- サークル・ゼミ・中国語・自炊・お弁当づくり・留学生との交流
- 留学・飲み会・ボランティア・旅行
- 留学・教授と仲良くなる・趣味を極める・飲み会・大学仲間旅行
- サークル活動・趣味・遊ぶ・いろいろな所に行く



1年生 これからしたい10のこと

—教育学部—

- 友達と旅行・ホームステイ・友達の家にお泊り・母親と旅行
- 一人旅・アルバイト・恋♥サークル・車の免許をとる・ダイエット
- サークル・サークルでバスケット・バイト・お金持ちになる(笑)
- 学科の友達と騒ぐ・海外旅行(ヨーロッパ辺り)・免許をとる・飲み会
- 彼女をつくる・海に行く・真面目に勉強する予定...
- 一人暮らし・サークルの飲み会にいっぱい参加・彼女をつくる・彼女と長続きさせる
- ホームステイ・留学・バイトをやめたい(つらいバイトをはじめってしまったから)
- TOEICで700点以上とる・英会話を学ぶ・学食のメニューをいろいろ食べたい
- 不可をとらない・実家に帰る・自転車上手くなる・車の免許をとる・四国に旅行
- 15万貯金・スイカわり・カラオケ・花火・恋したい♥
- 友達をたくさんつくる・部活をがんばる・バイトをがんばってお金を貯める
- 車の免許をとる・ボランティア・友達と旅行・外国の人と友達になる
- 読書・イメチェン・恋をする♥
- 小学校などでのボランティア・バイト・旅行・おしゃれな飲み屋さんに行く
- ピアスをあける・サークルでの合宿・一生つきあえる友達を作る
- 多少の無理覚悟でオールで遊びまくる・パークをかける・恋愛♥

—工学部—

- サークル・バイト・合コン・車を買う・車の改造・大学祭
- サークル・バンド活動・平日の全休・バイト
- 部活・飲み会・大学祭・合コン・彼女をつくる・車を買う
- サークル・大学祭・飲み会・朝寝坊
- サークル・飲み会・友達をたくさんつくる・バイト



—農学部—

- バイト・サークルを頑張る・旅行に行く・単位を落とさないように
- 飲み会に参加する・時間を気にせず遊ぶ・料理のしパートリを増やす
- やせる・食べ物や味を期限前に使い切る・ポケモンを全てコンプリートする
- 一人暮らし・バイト・サークル・彼女をつくる・暇な時間にゲーム
- 勉強を頑張る・富士山に登る・外国人と流暢に喋る・ヘリコプターに乗る
- かなづちを直し、海で泳ぐ・自転車で日本縦断
- 海外旅行・部活(バスケット部)を頑張る・バイト・普通免許を取る
- パソコンを買う・彼女をつくる・遊びたい・海に行く・沖縄に行く
- テレビを買う
- 料理を上達させる・家計のやりくりを上手に行う・ギター
- 屋久杉を生で見る・語学力を向上させ、海外に行く・LIVEに行く
- 勉強を頑張る・小説をたくさん読む・野宿・アフリカの食糧危機を解決する
- 英語力アップ・漢字のスキルを上げる・敬語を正しく使えるようになる
- 自然が多い場所に行く・社会の流れを常に注視する・規則正しい生活
- タイピングのスキル向上・スカイダイビング
- 新聞を読む習慣を身に付ける・部屋で植物を育てる

—国際学部—

- 女の子と仲良くなる♥・英語の勉強・体調よくする・料理
- 旅行・貯金
- 英語を話せるようになりたい・友達を増やしたい・資格を取る
- 旅行・免許を取る・いっぱいお酒飲む・国内をいっぱい回る
- バイト・小説をいっぱい読む・旅行・勉強
- ちゃんと授業に出る・資格を取る
- 旅行・資格・免許をとる・飲み会に参加・選挙に行く・料理
- 旅行・外国語の勉強・いろいろな人と話あ
- 貯金・バイト・一人暮らし



Circle pin-up

私たち「さとびと(郷人)」は栃木県の農業を応援する人の集まりです。まだ設立2年目のひよっこサークルで、活動範囲や内容は現在も拡大中です。私たちの中にもともと農家の出身者は少なく、大学に入って農業や自然に触れなくなった人がこの「さとびと」には多くいます。現在の活動は月に2~3回、栃木県茂木町にある棚田(さとびとでオーナー経営しています!)に行き、一年間を通して米作りをすることがメイ



草刈り



稲刈り

サークル紹介 さとびと(郷人)

ンです。その他に、夢大地応援団という栃木県の農村環境整備に参加し、県内各地で農業のお手伝いをしています。昨年度は栃木県のシンポジウムで活動を発表させていただいたり、地区のイベントに参加したりしました。今年度は「さとびと」と地域の人でワークショップを行ったり、オーナー制の運営の手伝いをさせていただいたり、さらに地域に密着した活動が増えています。普段かかわることのできない自然の世界や農村の生活をみなさんもぞいてみませんか? さあ、あなたも「さとびと(郷人)」になりましょう!

さとびと代表: 秋山拓也
090(2736)2637



地域の人とワークショップ

国際シンポジウム「グローバル化と多文化共生の展望」 入場無料

国際学研究科発足10周年及び多文化公共圏センター設立記念

宇都宮大学国際学部は今年4月に多文化公共圏センターを設立しました。このセンターはグローバル化に伴う様々な課題を地球規模で考えるとともに、地域連携・地域貢献を通して実践的に解決することを目的に設立されました。それを記念しまして、国際シンポジウムを開催します。日程はおおよそ以下のような予定です。詳細が決まりましたらHP等でお知らせします。

日時：10月29日(水) 10:30～ 場所：宇都宮大学多目的ホール
 第一部：基調講演 10:30～12:00
 Prof. Dr. Surichai Wungao (スリチャイ・ワンゲオ教授/タイ：チュラロンコン大学)
 Prof. Dr. Annette Treibel - Ilian (アンネッテ・トライベル・イリアン教授/ドイツ：カールスルエ大学)
 第二部：基調講演を踏まえてのパネルディスカッション 13:30～17:00
 司会 スエヨシ・アナ(宇都宮大学国際学部講師) パネラーとして学内外研究者数名を予定

お問い合わせはこちらまで
 宇都宮大学国際学部 多文化公共圏センター(矢部) TEL028-649-5228
 E-Mail: tabunka-c@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp
 多文化公共圏センターホームページ <http://mpic.utsunomiya-u.ac.jp/>

大学院公開授業「アカデミズムへの誘い ー人文研究の先端的研究とは何かー」 受講無料

宇都宮大学大学院国際学研究科では、広く県民の方々に大学院の授業を聴いていただくために、公開授業を実施しています。どなたでも受講できますので、ふるってご参加ください。

- 第1回 10月 4日 変貌する現代中国と日本の中国研究
- 第2回 10月11日 アフリカ・モラル・エコノミーによる経済停滞と内発的発展ーグローバル化の波の中でー
- 第3回 10月18日 研究のさまざまな視点：岡倉天心『茶の本』
- 第4回 10月25日 媒介者としての日本文学・日本文化ーヨーロッパから日本、そして韓国ー
- 第5回 11月 1日 中東地域の歴史と国民統合
- 第6回 11月 8日 市民レベルの国際交流と社会学

定年後、60才で宇都宮大学大学院国際学研究科に入学！
 会場 宇都宮大学国際学部E棟1階1151教室 全受講時間 14:00～16:00
 募集人員 45人 *募集人員を超えた場合は、先着順とさせていただきます。
 申込方法 「公開授業参加希望」と明記し、住所・氏名・連絡先電話番号をご記入の上、「往復はがき」または「電子メール」にてお申し込みください。

お問い合わせ・申し込み先
 〒321-8505 宇都宮市峰町350 宇都宮大学国際学部総務係
 TEL028-649-5164 E-mail koksomu@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

県民への授業公開

受講無料

国際学部では、開倫塾提供講座として国際学部専門科目「国際学特殊講義I(国際政治と日本)」を県民の皆様へ開放したいと考えています。講義を担当して下さる神長善次国際学部客員教授は、栃木県出身の外交官で、アジア、中近東の大使を歴任された方です。開倫塾のご厚意により、ぜひ県民の皆様へ、外交官から見た国際政治と日本の関係をお聴きいただきたいと思います。企画いたしました。

応募方法 往復はがきにて申し込み
 [宛先] 〒321-8505 宇都宮市峰町350 宇都宮大学国際学部 吉川稔専門員宛
 募集人数 30名 30名を超えた場合は教室の関係でお断りすることになります。可否については、返信はがきにて回答いたします。

応募期間 7月14日(月)～7月24日(木)
 *授業を実施する教室は、当日学務部修学支援課の窓口(D棟2階)でご案内いたします。
 *授業においては、履修者の皆様の積極的な質問等を歓迎いたします。
 *車でお越しになる場合は、正門の案内所にて遮断機のコインをもらってください。

授業期間および授業内容

第1日	8月 6日(水)	8:50～10:20	10:30～12:00	国際政治概論
		12:50～14:20		欧州政治の基礎
第2日	8月 7日(木)	8:50～10:20	12:50～14:20	アメリカ政治の基礎
		10:30～12:00		アジア政治の基礎
第3日	8月 8日(金)	8:50～10:20	10:30～12:00	文明概論
		12:50～14:20		文明概論
第4日	9月25日(木)	8:50～10:20	10:30～12:00	日本文明の基礎
		12:50～14:20		日本文明の国際比較
第5日	9月26日(金)	8:50～10:20	10:30～12:00	演習ー仮題：アメリカ大統領選挙(と日本)
				演習ー仮題：オリンピック後の中国(と日本)

保育を語る会(全5回)

- 第1回は終了しました。
 - 第2回 9月6日(土) 9:00～ パネルディスカッション
 テーマ：「気になる子と保育
 ～今、小学校の先生が困っていることは？～」
 - 第3回 10月25日(土) 9:00～ 公開保育及び保育研究
 テーマ：「気になる子と保育～心が動く教材や環境～」
 - 第4回 11月 予定 他園参観 テーマ：検討中
 - 第5回 2009年1月24日(土) 公開保育及び保育研究
 テーマ：「気になる子と保育～気になる子とクラスの友達～」
- 参加費：200円(資料代)

お問い合わせはこちらまで
 宇都宮大学教育学部附属幼稚園 TEL028-622-9051

2008年度日台科学技術セミナー

～機能光学の最前線～
 日本と台湾双方にとって重要な科学技術分野について、日台合同でセミナーを開催します。
 日時：11月10日(月)～13日(木)
 場所：宇都宮大学工学部アカデミアホール

入場無料

お問い合わせはこちらまで
 宇都宮大学オプティクス教育研究センター
 TEL028-689-7074 E-Mail: core@cc.utsunomiya-u.ac.jp

エアエンジンフェスタ2008

本大会は自然エネルギーを利用したもののづくりをテーマとし、参加される方に自ら考えながら企画・設計し、自らの手で製作する喜びを味わっていただき、競技会を楽しんでいただくことで科学への興味を喚起していただくことを目的として開催します。

日時：8月31日(日) 主催：エアエンジンフェスタ実行委員会
 (浦井勇委員長、委員は全員宇都宮大学の教職員)
 場所：宇都宮大学工学部体育館 共催：宇都宮大学工学部技術部
 (陽東キャンパス) 宇都宮大学工学部附属ものづくり創成工学センター

お申し込み・お問い合わせはこちらまで
 宇都宮大学工学部附属ものづくり創成工学センター内「エア・エンジン・フェスタ2008」事務局
 TEL/FAX 028-689-7070 E-Mail air-engine@cc.utsunomiya-u.ac.jp
<http://techsrv.eng.utsunomiya-u.ac.jp/air/>

どじょっこ合唱団 コンサート

入場無料

日時：9月20日(土) 13:00開場 13:30開演(1時間程度)
 場所：宇都宮大学教育学部附属特別支援学校体育館
 出演者：国立音楽大学どじょっこ合唱団
 附属特別支援学校メロディー
 ラブ(附属特別支援学校児童生徒の放課後活動：音楽クラブ)
 主催：附属特別支援学校PTA



お問い合わせはこちらまで
 宇都宮大学教育学部附属特別支援学校(宇都宮市宝木町1-2592)
 TEL 028-621-3871

国際キャリア合宿セミナー2008

9月20日(土)～22日(月)

～国際舞台で活躍を目指す若者たちへ～

国際的な仕事に求められる知識や能力を学び、これらの仕事に至るキャリアパスを考えます。国際キャリア合宿セミナーに参加すると、これからのキャリアを考えるヒントや判断材料が得られます。

また、全国の大学生や社会人など多様な参加者から、大きな刺激を受けられます！

講義講師と担当分野

国際イベントクリエイター(株)博報堂 ディレクター	中野民夫 氏
異文化間コミュニケーター(社)日本観光通訳協会理事	高宮暖子 氏
ソーシャルビジネス フェアトレードカンパニー(株)	高須花子 氏
国際青年ボランティア 白鷗大学教授(青年海外協力隊技術顧問)	結城史隆 氏
国際協力NGO 宇都宮大学教授(オックスファム・ジャパン)	重田康博 氏
国際公務員・フィールドリサーチャー 宇都宮大学准教授(前ユニセフ・UNDP)	阪本公美子 氏
国際ヘルスワーカー 国際医療福祉大学講師	石井博之 氏
農と環境の国際協力 宇都宮大学准教授(NPO法人エコピリティ)	平井英明 氏

参加費：18,000円 定員：100名(先着順)
 申込期間：7月1日(火)～7月25日(金)
 但し定員に達しない場合には締切日以降も申込を受け付けます。
 会場・宿泊：栃木県青年会館(コンセーレ)
 URL:<http://www.2.ocn.ne.jp/concere/>
 交通：JR宇都宮駅 関東バス「作新学院駒生」(番のりば) 200円
 東中丸バス停下車(コンセーレ前)

主催：宇都宮大学 大学コンソーシアムとちぎ
 共催：(独)国際協力機構 JICA地球ひろば
 協力大学：白鷗大学 国際医療福祉大学 作新学院大学
 後援：栃木県(財)栃木県国際交流協会(株)国際開発ジャーナル社 栃木県
 JICA専門家連絡会 栃木県青年海外協力隊OB会 いっくら国際文化交流会

ファシリテーター(分科会進行役)募集！！

ファシリテーターとは、参加者やその場の雰囲気、講師のキャラクターなどに合わせて臨機応変に会を誘導していく司会のことです。講師との1対1の打ち合わせをとおして、自分自身の学習を深める機会にもなります！普通の司会進行役とは一味違うファシリテーターに興味のある方はぜひお問い合わせ下さい。

お問い合わせ・申し込み先
 宇都宮大学学務部修学支援課(担当：大橋)
 TEL028-649-5084 E-Mail:ohashi@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

研究 Keyword

タケ類の系統進化と一斉開花の謎に迫る

農学部教授 小林 幹夫

PROFILE

信州大学農学部畜産学科卒業 / 名古屋大学大学院理学研究科生物学専攻修了 / 理学博士
専門分野：植物系統分類学

宇都宮大学農学部教授 小林 幹夫



ミクラザサの一斉開花の舞台となった御蔵島



私はいつか現地に出かけ、自分の眼で確かめてみたい、と思うようになりました。「ひょっとしたら、日本のササのルーツはアマゾンにまでさかのぼるのではないか?」チャンスは8年後の1990年に訪れ、アマゾンからアンデス、ブラジルの大西洋沿岸林、そして、大西洋を挟んだ対岸のカメルーンの森、北朝鮮と中国の国境に位置する長白山山麓の森林地帯、タイと

私がタケやササに興味を持ち始めて間もなくの頃、世界的なイネ科の分類学者・館岡亜緒博士の講演を聴く機会があり、そこで思わぬ話を耳にしました。「アマゾンの熱帯雨林の林床には、パリアナと呼ばれる、姿が日本のササにそっくりの草本性のタケがあり、薄暗い林床でもよく目立つ黄色の沢山の雄蕊により虫を引き寄せ受粉する」。

2003年度の農学部学習会でパイオニアの話題が取り上げられた時、現パイオニアサイエンス教

タケやササは、数十年に一度一斉に花を咲かせて枯れる」という、一斉開花枯死現象は一般に広く知られていますが、それがどのような仕組みで起きるのか、全く解っていません。



コロンビア・アマゾンの林床に繁茂するパリアナの1種：右上は花



モウハイチクの満開の花序

雑や笹団子、寿司や刺身など日本の食文化に欠かせない掌ほどもある広い葉を持つ笹は植物分類学上ではササ属 *Sasa* として1901年に牧野富太郎博士によって命名されました。野外ではパナ林など、冷温帯落葉広葉樹林の林床優占種として、積雪を見る地方の山野に鬱蒼と生い茂っています。しかし、これほどなじみ深いササも、一歩、日本を離れると、忽然と姿を消してしまいます。いったい、ササ属植物はどこから日本にやってきたのでしょうか?

マレーシアの国境などを探索し、試料を収集しました。これらの試料の葉緑体DNAの変異情報や葉緑体と核の遺伝子の持つ塩基配列の変異に基づいて系統類縁関係を解析した結果からは、かつて想像したアマゾンのササとの関連はなく、いわば、「他人の空似」でした。世界のタケ類はアマゾンを中心に分布する草本性タケ類、熱帯アジア・アフリカ・アンデスに分布する木本性タケ類、そしてネパールヒマラヤから中国・日本にかけて分布する温帯性タケ類、の3つの基本的な系統に別れ、ササ属は東アジアのタケ類の中で最も進化した位置にあること、ササ属の中では、ミクラザサを含むチシマザサの仲間が最も祖先的であること、等が分かりました。

1996年11月上旬、その年の3月に退職した森林科学科教員の記念旅行として三宅島を訪れました。せつ々しく、ということでも漁船をチャーターして南東18kmに浮かぶ御蔵島に渡ったときのことです。船酔いを免れた私を含む3名が最高峰の御蔵山に登り、そこで、驚くべき事件に遭遇したのです。何と! 山頂一帯に分布するミクラザサの群落の全てに花の蕾がついていたのです! それは、1997年春の一斉開花が始まる壮大なドラマの予告でした。

子(2N)の相同遺伝子が、一斉開花と花序の形成に直接関わっている可能性が示唆されました。「一斉開花」が植物の花成ホルモン・フロリゲンの生産を支配していることが2007年にドイツと日本のそれぞれの研究グループによって解明されました。その結果、私たちの研究で得られた成果と、生物学の発展の最先端の成果とを、絶えず照らし合わせて研究の進展を評価することが可能となっています。



キュー植物園での久本洋子さんの研究発表

お待たせいたしました。UU Now第14号をお届けします。フロントページでは、農学部を卒業され、(財)日本食品分析センターの理事長として活躍されている齋藤文一氏の特集しました。氏は「学業だけではなく人生に役に立つようなことを学んでほしい。勉強以外に強みを持った人間は、社会に出たときに、いつか必ず光る」と、人々との関係や、個性を磨くことの大切さを語ってくださいました。



広報室では、皆様のお声をお待ちしております。ご意見・ご要望などをお寄せください。
【宛先】宇都宮大学 企画広報室
〒321-8505 宇都宮市峰町350
TEL 028-649-8649 FAX 028-649-5026
E-mail plan@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

現在、自身の研究テーマである微生物の分析はもちろんです。社長のトップと社員の家族を守るという重責を担っています。中国製冷凍餃子問題など、食に関する安全性が求められる、ますます時代の要請が高まる一方で、これらに積極的にそして真摯に向き合う姿勢が印象的でした。



宇都宮大学 携帯サイトへGO!



編集後記

企画・編集 宇都宮大学広報室
CUNOW第14号編集委員
編集長 水本 忠武 理事 企画戦略担当
編集委員
蓮池 秀美 国際学部4年
岩上 恭文 教育学部3年
片柳 真美 教育学部3年
渡辺まり絵 教育学部4年
小林ゆう子 大学院教育学研究科2年
羽柴 浩司 大学院 理学研究科1年
吉岡 俊知 大学院 工学研究科1年
杉本 和子 農学部4年
マリーケオマノータム 国際学部教員
川原 誠司 教育学部教員
遠藤 博 工学研究科教員
佐々木英和 農学部教員
鈴木真一郎 学生支援課職員
鈴木真一郎 学生支援課職員
平野 利夫 学術情報課職員
高橋 和廣 企画広報室職員
谷中 由枝 企画広報室職員
本橋 宜久 企画広報室職員
本橋 宜久 企画広報室職員
ピオス編集室

午後のコンサート in オープンキャンパス 2008
~ 宇都宮大学教育学部 音楽教育専攻 大学院教育学研究科 音楽教育専修の学生による ~

日時: 8月3日(日) 13:30開演
場所: 教育学部2103教室 (F棟1階) **入場無料**

お問い合わせはこちらまで
教育学部作曲・音楽学・音楽科教育研究室
TEL 028-649-5358・5355・5353

UU laboratory